インドネシアと日本の子どものための津波防災パンフの作成と普及 (III)

Making and spread of TSUNAMI pamphlet for children in Indonesia and Japan 3

柴山 元彦 [1]; Dicky Musulim[2]; 香川 直子 [3]; 平岡 由次 [4]
Motohiko Shibayama[1]; Musulim Dicky[2]; Naoko Kagawa[3]; Yoshitsugu Hiraoka[4]

[1] 自環研オ; [2] パジャジャラン大; [3] 自然環境オフィ; [4] なし
[1] Natural Envi.Ins.; [2] Padjadjaran Univ; [3] Natural Environmental Ins.; [4] none

一昨年と昨年度の地球惑星連合大会などでは、インドネシアの子供のための津波防災パンフやポスターを作成しそれを配布し、その成果を発表した（柴山ほか 2006、2007、Shibayama 2006）。
本研究ではその後の普及活動を報告する。2006 年に作成した津波パンフレットは、その年の 6 月に持参し一部の村では直接メンバーが配布を行った。ところが 7 月の始めにジャワ島南部で津波が発生した。パンフレットとポスターをその前に配布した村では全員が助かった。このことは 1 枚のパンフでも防災の効果が大きいことを示した。
昨年（2007 年）は、インドネシア向けのパンフ 1 万 5 千部について、パンフの中に飛び出す部分があるため、その部分の貼り付け作業をボランティア活動として実施し、白鷺会（全日空客室乗務員ＯＢ会）の会員によって貼り付け作業が行われた。また、日本向けの津波パンフの普及活動としては、2006 年に行った和歌山県の小学校での活用例に続き、2007 年度は大阪で開かれたジオカーニバルで、子どもを対象に津波飛び出す絵本の作成をブースで実施した。また、和歌山県串本町の防災イベントにおいても同様な活動を行った。ジオカーニバルでは、約 200 名の子どもが飛び出す津波パンフの作成を行い、串本町の防災イベントでは、約 100 名の子どもが作成した。
また、2008 年度は本普及活動に中ノ島ライオンズクラブが費用面での支援が行われる予定である。